

研究報告

天然染料顔料会議機関誌執筆の手引き

A guide to writing for the Natural Dyes and Pigments Conference journal.

染織家 天然 染子
Dyeing and Weaving Artist, Tennen Someko

要旨：本文全体について、本文の中心になる内容、主題をまとめたもので、筆者が最も伝えたいことを200～300字にまとめて下さい。英文要旨は100語以内です。

キーワード：タイトル、筆者名、所属、要旨、キーワード（5項目以内）

1. 大見出し

原稿は、A4で、原則として次の書式に基づいて作成し、PDFファイルとして提出する。書式については、多少の逸脱は可とする。

- 1) 余白：上下左右各25mm
- 2) 字数行数：約40字×40行
- 3) フォント：本文は10ポイント明朝、タイトルは16ポイントゴシック、著者名は12ポイント明朝
- 4) 左上に原稿種別を記載
- 5) ページは打たない。
- 6) タイトル、英文タイトル、著者名。ローマ字著者名、所属機関名
- 7) 和文要旨(200～300字程度)、英文要旨(100語以内に要約したもの)
- 8) キーワードは和文要旨および英文要旨に続けて5項目以内
- 9) 見出しが、次のような番号振りとする

1. 大見出し

(1) 小見出し

さらに下位の小見出しあり。(1)や(a)で

8) 文献の引用は、本文中に、[5]のような番号で示すか上付文字で示す。

9) 図表は、図1、表1のように連番をふる。写真は「図○」でも「写真○」でもよい。「図1」「表1」の部分はゴシックとする。

2. 大見出し

(1) 小見出し1

この機関誌には、解説的な原稿だけではなく、学術論文あるいはそれに近い報告も掲載する。ただ、それらが混在していては好ましくないので、原稿の左上に原稿の種別を記することで、どういう種別の原稿であるかが一見して区別できるようになる。種別は、新しい事実の発見や解釈を伴い、著者にオリジナリティがある原著論文かそれに準ずるものを「研究報告」・「実践報告」とし、それ以外は、内容でいくつかに分類する。

◆研究報告（研究成果を学術論文のスタイルで記したもの。序論、研究方法、結果、考察、文献、といった項目から構成。）

◆実践報告（創作・制作に関する実践や成果、技法開発・改良の試みなどの実践結果の報告。実践の過程、技術的なデータ等を含む。創作に関しては、作品の写真と創作意図・創

作過程等の文章で構成。)

- ◆総説（既存の成果などを、文献や様々な実例を引用しながら、全体的・網羅的に記述したもの。「解説」よりは総合的。）
- ◆解説（あるテーマに関して、総合的にわかりやすく説明したもの。）
- ◆評論（価値判断を伴う記述で、「隨筆」よりは論理性の高いもの。「論文」ほどの考察は伴わない。）
- ◆隨筆（見聞、経験、感想などを記したもの。）
- ◆紀行（内容的には隨筆に分類されるが、特に旅行に伴う見聞が主であるもの。）
- ◆行事レポート（N D P Cの行事に関する報告、参加者の感想文など）
- ◆会告（N D P Cからの連絡事項）
- ◆コラム（ページの余白に囲み記事として載せる短い評論や隨筆や解説、編集後記）
- ◆付録（会則、細則など。）
- ◆巻頭言（冒頭を飾るもの。内容的には、評論・隨筆に相当する。量は1～2ページ。）

（2）小見出し1

（1）小見出し2

さらに下位の小見出しが必要な場合は、半角括弧と数字で。さらに下位の見出しあは(a)を使う。



写真1 図のタイトルは図の下



写真2 図のタイトルは図の下

表1 表のタイトルは表の上に

	綿	綿	麻	麻
項目1	4	4	4	4
項目2	4	4	4	4
項目3	4	4	4	4

3. まとめ

本文は原則として2段組にするが、原稿の内容によっては1段組でも可。

参考文献

- [1]著者氏名「論文の題名」雑誌名、pp76-84 (1975)
- [2]著者氏名「本のタイトル」 pp15-20(2007)

著者紹介（必要に応じて）

1979年 XX大学卒業

1979年 XX(株)入社

現職：XX(株)XX部長